

令和 6（2024）年度 事業報告
(2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人 パスウェイズ・ジャパン

1. 難民高等教育事業

【事業目的】日本で暮らしている難民や、難民の状況となって国外から日本に受け入れられた人々の内、進学機会の限られている人々に対して、奨学金の供与を通じて高等教育の機会を提供する。

【裨益者】難民の背景を持ち高等教育を受ける奨学生 21 名

【事業概要及び成果】

（ア）奨学金基金の運用

資産運用担当理事が、従来の運用方針に基づいて、資産運用アドバイザーの助言の下奨学金基金の運用を行い、本事業実施に十分な運用益を確保した。

（イ）奨学金の供与

本年度は奨学生 12 名に、大学学費を学期毎に奨学金として支給、大学への納付を行った。さらに大学の休業期間を除く 5 か月間、学年及び経済状況に応じて、生活費補助の奨学金を支給した。

（ウ）モニタリング

本年度奨学生より、毎月月報の提出により学業、生活、キャリア形成について報告を受けると共に、年度内に面会またはオンラインによる面談を行った。

（エ）2024 年度奨学生の募集

2025 年度奨学生募集告知を前年度から継続して行い、11 月 29 日に通算第 2 回となるオンライン説明会を実施し、計 72 名が参加登録した。

その後 2024 年 10 月 28 日から 2025 年 1 月 6 日の募集期間中に 61 名の応募があり、渡邊利三国際奨学生選考委員会による書類選考を経て、2 月 2 日に新規応募者 14 名の対面による面接、また 2 月 6 日及び 7 日に継続応募者 10 名のオンライン面接による選考を経て、2 月 18 日に 21 名を奨学生として選考した。

奨学生の国籍、性別、選考等は以下の通りである。

支援決定奨学生出身国（個人名は非公開）	性別	進学先・専攻（大学名は非公開）
シリア	男性	理工学部
シリア	男性	工学部（機械工学）
シリア	女性	社会学部（心理学）

ミャンマー	女性	国際教養学部
ミャンマー	男性	工学部（建築学）
アフガニスタン	女性	国際教養学部
ミャンマー	男性	大学院修士課程（工学）
アフガニスタン	男性	大学院博士課程（理工学）
トルコ（クルド）	男性	大学院修士課程（社会学）
ミャンマー	男性	大学院博士課程（情報工学）
ミャンマー	女性	看護学部
ミャンマー	女性	看護学部
ミャンマー	女性	日本語・日本文化
ミャンマー	女性	英語英文学科
ミャンマー	女性	工学部(機械・電気工学)
ミャンマー	男性	工学部(機械・電気システム工学)
アフガニスタン	女性	短大経済学部
アフガニスタン	女性	英語コミュニケーション学科
ウクライナ	男性	異文化コミュニケーション
カメルーン	女性	人文学部
アフガニスタン	男性	大学院博士課程(グローバルスタディズ)



2025 年度渡邊利三国際奨学金授与式の様子

2. 難民等受け入れ自立支援事業

【事業目的】 世界各地で難民の状況となっている人びとを日本に受け入れ、難民が日本社会の一員として自立し活躍していくことを支援し、また難民や国際的な難民保護に対する社会の正しい理解を促進する。

① 日本への受入れ事業

国外から日本に難民等を受け入れ、日本語学校及び大学での日本語習得と進学または就職に至るまでの進路指導を通じて、安定した尊厳ある生活の実現を支援する。

【裨益者】 難民の背景を持つ若者 205 名（本年度までに受け入れた学生及び帯同家族総数）

【事業概要及び成果】

（ア）日本語学校・大学での日本語教育と定期面談

本年度は、パートナーの日本語学校 11 校及び 16 大学で、以下の各国、各期の留学生に対して日本語教育及び高等教育が実施された。

また、日本語学校生については四半期毎に定期面談を実施すると共に、大学生は年 1 回の定期面談または受け入れ教育機関を通じたモニタリングを行い、さらに個別教育機関との定期協議やネットワーク会合等を通じて各学生の状況を把握し、必要な対応を行った。また後述の学生リユニオン等の機会にも学生達を集めて、ワークショップ形式で悩みや課題等の把握に努め、在留資格、生活、学業、進路等の各課題について助言やサポートを行った。

【シリア学生】

日本語学校 5 期生 3 名、日本語学校 6 期生 2 名、7 期生 5 名、8 期生 6 名、大学 3-6 期生：4 名、計：20 名

【アフガニスタン学生】

日本語学校 1 期生 1 名、2 期生 3 名、3 期生 6 名 計：10 名

【ウクライナ学生】

日本語学校 1 期生：4 名、日本語学校 2 期生 5 名、大学 1 期生：52 名、大学 2 期生 10

名、大学 3 期生：11 名、 計：82 名

合計：119 名

（受け入れ教育機関については資料 1.、また各教育機関と当団体が行う支援内容については資料 2.を参照。）

（イ）キャリア形成とネットワーキング支援

2025 年 3 月に日本語学校生リユニオンを都内で開催し、1 年生が進学、就職について講師及び卒業生から学ぶと共に、相互の疑問や悩みを共有した上で、2 年進学以降のそれぞれの計画を明確化できるよう機会を提供した。

（ウ）卒業生のモニタリングと進路

2023 年度以前に受け入れられ、日本語学校や大学を卒業または中退したシリア日本語学校 1-7 期生及び大学 1-2 期生 3 名、アフガニスタン 1 期生 2 名、ウクライナ日本語学校 1 期生 43 名を対象にモニタリングを行い、特に就職活動、進学準備中の卒業生に対して、情報提供や助言、必要な場合には進路相談のための面談を実施した（以上は第三国在住者を除く）。

また、2025 年 3 月でシリア日本語学校 6 期生 3 名、大学 2 期生 2 名、アフガニスタン 2 期生 3 名、ウクライナ日本語学校 1 期生 4 名、大学 1 期生 9 名が卒業または就職が決まる等して中退し、これまでの卒業・修了生の総計は 113 名となった。

卒業生・修了生の進路状況は以下のとおりである。

就業 35 名

就職活動（パートタイム就業中）13 名

フリーランス 7 名

大学院博士課程進学 1 名

大学院修士課程進学 9 名

大学学部進学 13 名

大学非正規課程進学（研究生等）3 名

専門学校進学 8 名

進学準備中（パートタイム就業中）3 名

第三国に移住 4 名

本国に帰国 16 名

その他 1 名

*来日時受け入れ日本語学校・大学に在学中の在校生は 91 名

（エ）国外在住の難民等より学生の募集と選考

2025 年度受け入れ学生について、前年度から継続して募集と選考を進め、10 月にオンラインで面接を進めた。

その結果、シリア出身者 7 名、アフガニスタン出身者 9 名及びウクライナ出身者 8 名が選考され、受け入れ日本語学校に推薦の後、各学校による面接を経て、以上全員が採用され、24 名の採用が内定した。

(オ) 2024 年度新入生の来日前支援と受け入れ

採用者の内シリアとアフガニスタン出身者は、各日本語学校を通じて留学の在留資格認定証明申請を行い、以上の発行後に留学の査証を取得、ウクライナ出身者はウクライナ避難民向け短期滞在査証を申請、取得した。また、2024 年 12 月から 2025 年 3 月にかけて、すべての採用者に対して来日前オンライン日本語講座を提供し、採用時の日本語力に合わせて授業を行い、初学者の場合も日本語学校入学に必要な基礎を習得できるよう支援した。さらに、数回にわたる来日前オリエンテーションによって、渡航や日本語学校入学及び日本での生活に必要な予備知識を事前に身に付けられるよう支援した。

その後、事情によりアフガニスタン出身の内定者 2 名が辞退となり、さらにシリア出身者 1 名が査証申請の遅れで 7 月来日予定となったことから、以上 3 名を除く 21 名の学生が、2025 年 3 月最終週に来日を果たした。来日後は、先輩学生によるオリエンテーションに参加、またパートナー団体と支援者による来日歓迎会に出席した。

以上の学生の受け入れにより、現在までの受け入れ総数は、以下の通りとなった。

シリア学生 52 名、アフガニスタン学生 21 名、ウクライナ学生 132 名（帯同家族含む）

合計：205 名



2025 年度受け入れ留学生来日時の様子 新入生歓迎会兼卒業生祝賀会でのスピーチ

(カ) 企業、市民社会組織、政府機関等とのパートナーシップ

【企業】

個別の企業による就職説明会やインターン募集等の情報提供を受け、学生に情報提供を行った他、後述の就活メンターシップやセミナー、さらに JEPN が実施の学生リユニオン等で、学生の就活に関する協力を得た。



企業交流会の様相から

【市民社会組織】

前年度までと同様、日本国際基督教大学財団とは、事業実施パートナーとして協同で受け入れ・自立支援事業を実施した。また、シリア学生の受け入れに際しては、国際協力機構（JICA）の元シリア派遣シニア・ボランティア等で構成されるシリア OV 会とのパートナーシップに基づき、同会がメンバーとの交流や、小学校の総合学習の時間での講演等の機会を提供した他、同会メンバーがボランティアとして大学受験準備のための補修授業等をシリア学生に提供した。またウクライナ学生の受け入れでは、(特活) 日本ウクライナ友好協会 KRAIANY とのパートナーシップの下、同協会が生活上の様々な相談への対応や、情報提供を行った。またメンタルヘルスのオリエンテーション実施に際しては、(特活) TELL の協力を得た他、就活に関する講義、相談等において (特活) WELgee の協力を得た。

【政府機関】

留学生の査証及び在留資格の申請に際しては、所管の外務省、各国在学公館及び出入国在留管理庁との調整を行った。また日本語教育に関しては文部科学省日本語教育課に適時報告を行う等密接に連携して事業を実施した。また、ウクライナ学生受け入れに際しては文部科学省高等教育局とも連絡・調整を行い、同省より後述の日本教育パスウェイズ・ネットワーク（JEPN）の定期会合にオブザーバー参加があった。

② 就労・自立支援

【事業目的】 シリア、アフガニスタン、ウクライナ等の難民等で、就労に必要な日本語力及びその学習機会を欠いている人々を対象に、日本語講座の機会を提供する。さらに、就職活動に必要なスキルを身に着けるため、就職カウンセリング及びセミナー等を開催する。

【裨益者】 日本語講座受講者のべ 24 名、就活セミナー参加者 24 名、計 48 名

【事業概要】

(ア) アフガニスタン退避者等への日本語講座

日本語を学ぶ機会のないアフガニスタンの難民等に対して、「日本語能力試験 N3 対策講座」をオンラインにて提供した。対象者は公募の後、就労・自立支援対象者選考委員会が書類審査によって選考を行い、のべ 24 名が受講生として選定され、経験豊富な日本語教師によるオンライン授業にて学習した。

授業内容：初級 II30 時間、フォローアップ講座 6 時間

N3 対策講座クラス①ターム 1, 2

実施時期：2024 年 7 月～2025 年 1 月

参加人数：のべ 12 名（オンライン）

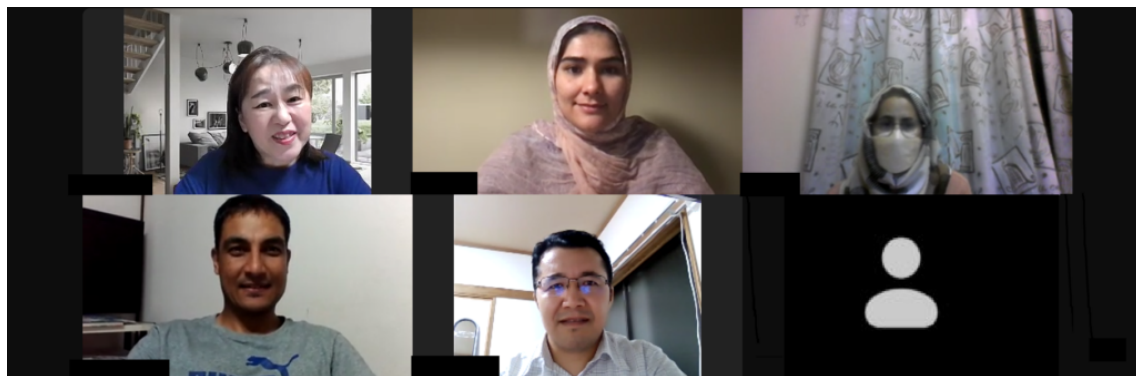
クラス内容：日本語能力検定試験 N3 受験のための対策 I、II 各 30 時間

N3 対策講座クラス②ターム 1, 2

実施時期：2024 年 12 月～（2025 年 5 月まで）

参加人数：のべ 12 名（オンライン）

クラス内容：日本語能力検定試験 N3 受験のための対策 I 30 時間



オンラインによるアフガニスタン退避者等向けの日本語講座の様子から

（イ） 就活セミナー及び日本語講座

新卒採用の就職活動を行っている難民等を対象に、就活フェア参加や面接で必要となる日本語を強化する就活日本語講座を 10 月 12-13 日に、また効果的な留学生の就活に関するセミナーを 2024 年 10 月 25 日に実施した。37 名が採用され、最終的に体調不良等の欠席者を除く 24 名が参加した。参加者は、日本語講座でビジネスにおける敬語を復習すると共に、自己分析結果に基づいて、自己紹介と自己アピールを日本語で行うための演習を行った。また就活セミナーでは、留学生の就活の要点を理解すると共に、セミナー参加企業 13 社と直接話して、自己アピールを実践する機会を得ると共に、各企業について理解を深めた。



就活セミナーでの講義の様様



企業関係者との実践的なブース訪問演習

③ 普及・啓発事業

本事業及び市民社会主導の難民受け入れの必要性和意義について発信し、社会の理解の向上に寄与する。

【裨益者】難民受け入れに関心を持つ市民、教育機関、企業、行政等

【事業概要】

(ア) ウェブサイト等での定期発信

団体ウェブサイト及び Facebook 等の SNS 及びメールマガジンを通じて、月に 1-2 回、各事業の進捗や、難民避難民受け入れに関する団体の見解などを一般市民及び当団体パートナー組織や支援者等に対して発信した。

(イ) メディアを通じた発信

難民等留学生の出身国における政変発生の記念日等に団体としてメディア向けの情報発信を行った他、メディアからの役職員及び受け入れ留学生・卒業生への取材依頼等に対応し、難民等の受け入れの必要性和意義について広く社会に発信した。

メディアを通じた発信の詳細については資料 5. を参照。

(ウ) セミナー・シンポジウム開催、講演

在日カナダ大使館、日本国際基督教大学財団との共催により 11 月 20-21 日に

カナダ大使館で「日本への技能に基づくパスウェイズ（教育・就労）に関するシンポジウム」を開催し、約 60 名の参加者に対して、代表理事及び受け入れ留学生 1 名が事例共有を行った。

その他、講演・シンポジウム等開催の



カナダ大使館等と共催した技能に基づくパスウェイズに関するシンポジウムの様子

詳細については資料 6. を参照。

(エ) 難民等に関わる国内外の会合やネットワーク団体への参加

【教育パスウェイズ・グローバルタスクフォース (GTF)】

メンバーとしてオンラインで隔月の定期会合に参加した他、また上述の米国で開催の「実践者コミュニティ会合」及び同時に行われたタスクフォースの対面会合に出席した。また、合同アドボカシー・ワーキンググループのメンバーとして、グローバルな教育パスウェイズ促進のための計画立案に従事した。

【(特活) なんみんフォーラム】

メンバーとして各種会合に参加した。

【日本 UNHCR-NGO 評議会 (J-FUN)】

メンバーとして各種会合に参加した。

【アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム (AFA)】

メンバー団体として運営に携わり、アフガニスタン退避者の身元保証人等との情報交換のための定期会合を隔月した他、政府の難民及び補完的保護者への定住支援プログラムを実施する難民支援事業本部と NGO 等との四半期毎の調整会合の開催にも従事した。また 1 月にはオンラインによるシンポジウムを共同開催した。

【日本教育パスウェイズ・ネットワーク (JEPN)】

各大学等と構成する運営メンバーの一員として、隔月の大学教職員による定期会合の開催、難民背景の学生と日本社会出身の学生による学生会合の開催及び難民・避難民学生のリユニオン・デイの開催等に従事した。また、各大学で受け入れの学生からの相談等に対応すると共に、在留資格、生活、就職活動に関する情報提供を行った。



JEPN 学生リユニオン・デイでの
企業関係者とのカフェトーク

【Peace & Democracy フォーラム実行委員会】

沖縄県の協力の下、国際協力 NGO が実施する平和と民主主義に関するフォーラムの開催と沖縄県出身の学生の都内での研修に際して、委員会メンバーとして実施に協力し、沖縄県出身の学生と難民・避難民の学生との意見交換等を実施した。

(オ) 公的制度や運用の改善に関する政策提言

アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム (AFA) のメンバー団体として、難民・避難民に対する日本語教育の充実に向けた提言の策定に寄与した。

3. 評議員会及び理事会の開催

① 評議員会

第2回臨時評議員会（決議の省略）（2025年1月21日）

第1号議案 主たる事務所の移転に伴う定款変更の承認の件

② 理事会

第4回臨時理事会（決議の省略）（2024年10月9日）

第1号議案 就労・自立支援対象者（就活セミナー）受講者選考の件

第5回臨時理事会（2024年10月22日）

第1号議案 諸規定の変更承認の件

第2号議案 2024年度日本語学校受け入れ留学生選考の件

第3号議案 渡邉利三国際奨学生選考委員選任の件

第4号議案 200万円以上の助成金受領に関する覚書締結の件

報告第1号 公益認定及び以上に伴う定款変更の報告

報告第2号 資産運用状況と運用体制に関する報告

第6回臨時理事会（決議の省略）（2025年1月14日）

第1号議案 新事務所の賃貸契約及び主たる事務所移転の件

第2号議案 主たる事務所の移転に伴う定款変更案の承認の件

第3号議案 臨時評議員会の招集の件

第4号議案 SAP ジャパンへの200万円以上の寄付依頼書発行の件

第5号議案 就労・自立支援対象者（日本語N3対策講座第2期クラス）受講者選考の件

第7回臨時理事会（決議の省略）（2025年2月18日）

第1号議案 2025年度渡邉利三国際奨学生選考の件

第2回通常理事会（2025年3月12日）

第1号議案 2025年度事業計画（案）及び2025年度予算（案）の承認の件

第2号議案 公益目的事業計画の一部変更の件

第3号議案 200万円以上の寄付金・助成金受領に関する覚書締結の件

第4号議案 出張規定の一部改訂の件

報告第1号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第2号 資産運用状況の報告

4. 公益認定申請

2024 年 10 月 1 日付で公益認定を取得し、公益財団法人としての登記等の手続きを進めた。

以上

附属明細書

資料1 受け入れ教育機関一覧

■大学（18 大学・50 音順）

関西大学（大阪府）
関西外語大学（大阪府）
関西国際大学（兵庫県）
慶應義塾大学（東京都）
国際基督教大学（東京都）
上智大学（東京都）
創価大学（東京都）
大東文化大学（埼玉県）
テンプル大学ジャパンキャンパス（東京都）
東京女子大学（東京都）
常磐大学（茨城県）
フェリス学院大学（神奈川県）
文京学院大学（東京都）
武蔵野大学（東京都）
明治大学（東京都）
立教大学（東京都）
龍谷大学（京都府）
早稲田大学（東京都）

■専門学校（2 校）

総合学院テクノスカレッジ（東京都）
日本写真芸術専門学校（東京都）

■日本語学校（23 校）

仙台国際日本語学校（宮城県）
日本国際工科専門学校（千葉県）
船橋日本語学院（千葉県）
ABK 学館日本語学校（東京都）
カイ日本語スクール（東京都）
新宿日本語学校（東京都）
東京工学院日本語学校（東京都）
東京国際外語学院（東京都）

東京明生日本語学院（東京都）
京都民際日本語学校（京都府）
倉敷外語学院（岡山県）
国際言語文化センター附属日本語学校(ICLC)（沖縄県）
「ウクライナ学生支援会」参加の以下の各日本語学校
メロス言語学院（東京都）
日本語センター（京都府）
清風情報工科学院（大阪府）
コミュニカ学院（兵庫県）
神戸住吉国際日本語学校（兵庫県）
専門学校湖東カレッジ（熊本県）
国際ことば学院日本語学校（静岡県）
ループインターナショナル日本語学校（大阪府）
AMA 日本語カレッジ（兵庫県）
創智国際学院（兵庫県）

資料 2. 留学生受け入れに際しての各教育機関及び当財団による支援内容

【日本語学校】

- ・学費無償にて 2 年間（約 1500 時間、日本語能力検定試験 N2, CEFR B2 レベル到達）の日本語教育
- ・通常留学生に提供する住居探し、行政手続き、生活相談、進路相談、アルバイト紹介等の支援を提供

【専門学校】

- ・学費無償にて卒業まで必要年数の専門学校教育

【大学】

- ・学費無償にて 1-2 年間の非学位プログラム（留学生別科、科目履修生等）での日本語教育及び授業履修
 - ・学費無償にて学位プログラム（学部・大学院）での高等教育（編入を含む入試合格の場合）
 - ・以上在学期間中の寮等の住居提供及び生活費支給
 - ・通常留学生に提供する行政手続き、生活相談、進路相談、アルバイト紹介等
 - ・受け入れ留学生をサポートする学生グループの協力
- （以上は大学によって条件が異なる場合もある）

【当財団】

- ・募集・選考と各教育機関への推薦
- ・在留資格・査証取得支援、また渡航費支援
- ・来日前後の受け入れ支援と生活立ち上げ支援
- ・半年間の生活費支援（ただし、行政・企業等からの住居支援がある場合は来日時支援金のみ）
- ・当財団が定期面談と進路相談及び情報提供

資料 3. 来日時オリエンテーション項目

- ・先輩留学生による経験共有（文化・社会、食事と家計、日本語習得、アルバイト、進学・就職準備）
- ・在留資格・行政手続き
- ・日本の文化・習慣
- ・生活関連情報（公共交通機関、自転車、コンビニエンスストア、銀行、電子マネー等）
- ・メンタルヘルスの課題への備え
- ・災害・事故への備え
- ・人権とジェンダーに関する理解と事件への備え
- ・メディア取材への理解と備え
- ・在日同国人コミュニティ等の紹介
- ・留学生のアルバイト概要
- ・留学生のキャリア形成
- ・やさしい日本語での履歴書作成
- ・アルバイト面接演習

資料4. 日本教育パスウェイズ・ネットワーク (JEPN) 加盟機関

関西大学（大阪府）
関西外語大学（大阪府）
関西国際大学（兵庫県）
関西学院大学（兵庫県）
慶應義塾大学（東京都）
国際基督教大学（東京都）
上智大学（東京都）
創価大学（東京都）
大東文化大学（埼玉県）
テンプル大学ジャパンキャンパス（東京都）
天理大学（奈良県）
東京大学（東京都）
東京女子大学（東京都）
東北大学（宮城県）
常磐大学（茨城県）
フェリス女学院大学（神奈川県）
文京学院大学（東京都）
法政大学（東京都）
武蔵野大学（東京都）
明治大学（東京都）
立教大学（東京都）
龍谷大学（京都府）
早稲田大学（東京都）
パスウェイズ・ジャパン（東京都）
Japan ICU Foundation（米国）
（計 25 団体）

資料 5.メディア掲載実績

2024/12/09 朝日新聞『[アサド政権崩壊「お祝いまだ早い」 日本に住むシリア人、喜びと不安](#)』（受け入れ留学生のコメント掲載）

2024/12/12 南日本放送／TBS NEWS DIG『[アサド政権崩壊に「信じられなかったけど、みんな幸せ」 鹿児島県内のシリア出身女性の思い](#)』（当団体事業卒業生のコメント掲載）

2024/12/26 朝日新聞『[日本めざす難民学生、外国人が必要な日本 つなぐ NPO 支える米国人](#)』（当団体事業について掲載）

2025/02/25 TBS ラジオ『[ロシアによるウクライナ侵攻から 3 年。長期化する避難民の現状と今後の課題](#)』（当団体事業卒業生が出演）

2025/03/31 朝日新聞『[日本で就活するウクライナ人学生 エントリー、面接の敬語「難しい」](#)』（当団体事業について掲載）

資料 6. 講演・シンポジウム等実績

(個別企業等での講演は非掲載)

10 月 16 日 EU-Passworld がパリで開催の「教育と就労のパスウェイズのシナジー創造に関する円卓会議」にて事例発表（オンライン、代表理事）

10 月 31 日 東京都「外国人材受入総合サポート事業」ウクライナ避難民等の就労受入セミナーにて事例紹介（オンライン、代表理事）

11 月 20-21 日 カナダ大使館、日本国際基督教大学財団と共催の「日本への技能に基づくパスウェイズ」に関するシンポジウムにて事例発表（東京、代表理事、受け入れ留学生 1 名）

1 月 22 日 アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム主催オンラインシンポジウム「アフガニスタン退避者受け入れ報告会～日本、韓国、そして各国での社会統合の比較の視点から」の開催に協力

3 月 1 日 Peace & Democracy フォーラム実行委員会主催の沖縄県出身の学生の研修成果報告会の開催に協力（オンライン、代表理事、職員 1 名）